

第21回言語教授法・カリキュラム開発研究会 全体研究会報告

第21回言語教授法・カリキュラム開発研究会 全体研究会が本学131講義室において2006年6月24日(土)午後1時半より開催された。テーマは「留学してわかったことー留学の意義, 海外での日常体験, 教育内容について経験者が本音で語りますー」である。今回の研究会は5人のパネリストによるパネルディスカッションの形式を取った。パネリストは2005年度に文学部歴史学科を卒業された中島亜樹さん(ドイツ:フンボルト大学に留学), EBA総合コース4年の李祥太君(アメリカ:ニューヨーク州立大学バッファロー校に留学), 文学部英語英米文学科4年の太田成美さん(カナダ:ビクトリア大学に留学), 法学部経営法学科4年の徳田博士君(フランス:トゥール大学に留学), 韓国・漢陽大学校から本学への留学生, 文藝真さんの5人である。最初に5人はそれぞれの留学経験を, 特に以下の事項を中心に述べた。

- ▶ 留学する理由・目的
- ▶ 留学して得たもの
- ▶ 留学経験が自分の考え方・物の見方に及ぼした影響
- ▶ 留学して自分の国・文化についての考え方が変わったかどうか
- ▶ カルチャーショックを経験したかどうか
- ▶ 面白い経験・つらい経験
- ▶ 留学先の教育制度の自国と比べての共通点・相違点
- ▶ 留学先の学生と自国の学生の勉強に対する態度
- ▶ 成績評価の方法
- ▶ 留学先のキャンパスの雰囲気や設備など

休憩の後, 質疑応答に移った。5人のパネリストは司会のポール・ロス助教授から上記の項目にはない質問, 例えば留学に向く学生, 向かない学生のタイプがあるか, 留学期間は十分だったか, もし今後留学の機会があれば同じ国にもどりたいか, 別の国に行きたいか, などに対して各自が答えた。次にフロアからの質問を受け付けた。当日はたくさんの学生が参加して活発な質疑応答が行われた。司会者の聞いた質問をより詳しく聞いたり, 各自が考えたりしたものなど内容は多岐に渡った。たとえば留学費用はいくらかかったか, 親の説得は大変だったか, どうすれば友人を作ったり異文化になれたりできるか, 留学先の人たちは日本人をどう思っていたか等。

研究会は3時45分終了し, そのあと4時から生協食堂において懇親会が開かれた。和やかな雰囲気の中, 参加者はパネリストと留学について語り合い, 5時には散会した。